



# 音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之  
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email [nichion@yomogi.or.jp](mailto:nichion@yomogi.or.jp)



笠木さん

講師は北海道の笠木博逸さん。沢山の映像による資料をご用意くださり、歌と映像で創作の歴史を語ってくださいました。1970年代後半からの、職業病闘争、ローカル線廃止への抗議コンサート、反核の行動…。町の公民館や一般客も乗っている列車の中

10月22・23日、東京都豊島区の駒込地域文化創造館にて、関東ブロック合宿を開催しました。茨城・千葉・東京から17名が参加。感染症対策で、宿泊交流はなく、1泊2日という短いものでしたが、2019年の合宿が台風で中止になって以来、4年ぶりの開催でした。

## 関東ブロック合宿 4年ぶりに開催しました



千葉・鈴木さん

でのコンサート、また、保育園父母会で歌の会を開いてきたこととか…。歌の力量と広めようという姿勢と企画に圧倒されました。

2日目はミニコンサート。笠木さんにたつぷり45分演奏していただいたあと、茨城・江崎さんの音楽祭スポットライトの再演など8団体・個人が演奏。充実したコンサートになりました。

最後は「ココロでシングアウト」と称し、大きな声で歌わなくても全員が打楽器を打ち鳴らし、名曲「Let's scream song」を身体じゅうで味わって、合宿を終えました。

(森理子)

## スウィングセピア 定期演奏会開催



10月23日、千葉県松戸市民会館にて3年ぶりに第42回定期演奏会を開催しました。コロナ渦中、練習会場の閉鎖や自粛等で長期間のブランクを乗り越え、開催にこぎつけました。

当日は800人の来場者がスウィングセピアの演奏によるビッグバンドジャズやラテン・昭和歌謡の名曲に酔いしれ、大きな拍手を頂き、大成功で終了しました。

今回の開催で心機一転、再スタートとし、来年の活動に向けメンバーの結束を確認しました。

(磯川)

# 集うよこび



ココロでシングアウト



茨城・江崎さん



みなさん、また会いましょうね！

# 2023年度活動方針(案)

## 1 はじめに

2022年度は新型コロナウイルス感染症の収束は見られないものの、重症化率の低減のもと、少しずつですが、音楽現場をもういちどつくり出す努力がされてきました。そうした中で、第53回はたらくものの音楽祭は、開催・参加に積極的な支部・会員と感染への不安を抱える支部・会員とで対応が分かれる結果になってしまいました。したが、3年ぶりに開催し、慎重な感染症対策の中で成功をさせることができました。同時に、インターネットを活用した演奏活動の交流の模索もすすめ、また Remote Music Meeting の開催など創作活動に力を入れようと呼びかけました。音楽祭の3年ぶりの開催もあって、日音協ソング応募数は2020年15作品、2021年8作品に対して、2022年15作品となりました。

日音協は、支部を日常活動の集約の場として、労働組合の集会をはじめ様々な場に出かけ、また、多くの音楽現場を作り出していきます。そして、生活のうた、職場のうた、平和のうたをつくり、うたい、ひろめ、つなぎあつことを柱に、はたらくものの立場にたった音楽運動

第53回音楽祭では新型コロナウイルス感染症対策に注力しましたが、引き続き細心の注意を払うことにします。特に舞台スタッフの負担が大きくなっていることから、交通費の一部を日音協が負担する方向で検討します。

## 3 ブロック合宿

ブロック合宿は、会員と支部を基盤とする組織になった日音協が、新しい会員を迎える重要な機会であり、会員一人ひとりが、会員になってもらいたい人・会員になってもいいなと思っている人を誘って参加することをめざします。2022年度は北海道ブロックと関東ブロックだけの合宿開催となりましたが、2023年度は東北ブロック、北信越ブロック、沖縄県も合宿を開催するとともに、東北南ブロック合宿、四国ブロック合宿、九州ブロック合宿の開催をめざします。引き続きにより日音協中央財政から支援をすることとします。

④ 一年度一つの支部につきこれらの要件を満たす合宿が複数あるときは、そのうち参加者の多いものを優先して扱います

⑤ 金額は、一年度一つの日音協ブロック合宿につき、参加者(外部講師、日音協中央を除く)が5人の場合を10000円とし、参加者が1人増えるごとに10000円を増額します。ただし上限を40000円とします。

## 4 日音協セミナー2023と若い会員の交流会、リモート・ミュージック・ミーティング

日音協セミナー2023を創作コースとうたうコースの2コースとして開催します。同じ会場、同じ日程で、若い会員の交流会を開催します。音楽を基本にした交流会で、若い会員に「日音協に入ってよかった」と思ってもらえる取り組みとして、新たな会員を迎えることをめざします。若い会員の中でも40歳以下の会員は往復交通費を日音協が負担します。まだ日音協会員になっていない若い人も歓迎します。

⑤ 連合、平和フォーラムなどの行動参加

引き続き、連合中央メーデー、各県メーデーの集会、労働組合の大会・集会や行動などに積極的に参加、うたい演奏します。連合中央メーデーでの演奏を日音協の顔としての合唱・演奏と位置づけて、ていねいな合唱練習をして準備します。

平和フォーラムの構成組織として、平和フォーラムやその地域組織の行動に参加します。さようなら原発1000万人アクション、戦争をさせない1000人委員会や5・3憲法集会をはじめとした総がかり行動など、地域の反戦・平和・脱原発・労働者の権利擁護のための行動に参加し、うたい演奏します。

6 沖縄に連帯する行動

沖縄では、第二次世界大戦で唯一地上戦が戦われ、アメリカの軍政のもとで土地を奪われ、米軍基地を造られ、今なお米軍専用施設の70%が集中しています。辺野古ゲート前の座り込みは感染症まん延防止のために長期の中断を余儀なくされましたが、再開の状況に應じて、沖縄の被害、差別の実態をまなび連帯するために参加を全国に呼びかけます。

とりわけ、2023年の5・15沖縄平和行進・県民大会に、日音協として参加します。



(2面よりつづく)

日音協沖縄県支部と沖縄平和運動センターとの関係を密にして、これを全国の日音協が中央の平和フォーラムと協力しつつ支えることにします。

## 7 県支部・サークルがつくる音楽現場

感染症のまん延により、2年半以上にわたって音楽現場づくりはとても困難でしたが、それでも感染防止の工夫をしながら少しずつ再開されてきました。改めて、県支部やサークルが積極的に音楽現場をつくります。また、毎月第3金曜日の官邸前反原発行動(反原発うたいたい)のように、街頭で訴える音楽現場も工夫します。

## 8 日音協ソングの募集など

日音協のみずから表現する運動の重要な柱である創作を推進するために、日音協ソング2023を募集します。各支部の意見をきいたうえで会長が指名する人と日音協幹事会メンバーあわせて8人で選考委員会を構成し、応募曲の中から全国に広めたいうたを選考

し、歌集、ホームページ、音楽祭などで広めます。

日音協と共通の理念をもって歌を創っている音楽家にインタビュして「歌を創るということ」としてインターネットで共有します。

## 9 インターネットによる動画の配信等

日音協のインターネット音楽会2023を開催し、会員やサークルの演奏する動画や音源を配信します。ホームページを充実するとともに、メンバーリストやSNSのような相互の情報共有を工夫します。YouTube上に新たに日音協ミュージックビデオ(MV)再生リストを立ち上げます。

CDや新しい歌集等を制作します。支部のCD等の制作を支援します。

## 10 組織活動

日音協は、個人である会員とその日常活動の集約の場である支部を基盤とする組織です。北海道支部、青森県支部、岩手県支部、秋田県支部、福島県支部、茨城県支部、千葉県支部、

東京都支部、新潟県支部、長野県支部、富山県支部、香川県支部、九州支部、沖縄県支部の14支部と支部に所属しない会員とで構成されています。この1年間、会員数は2021年11月(2022人)から入会2、退会10で8人減の194人(2022年11月1日現在)となりました。

労働組合は、自治労、林野労組、東武交通労組と公務労協が賛助団体として支えてくれています。はたらくものの音楽祭は、開催実行委員会をつうじてさらに多くの団体が支えてくれています。

地域支部と労組が日音協活動の基盤であるという認識から、日音協地域支部の新たな結成をはかります。同時に、労働組合との関係を強化するとともに、労働組合全国組織ごとに労組内の音楽活動家を組織する労組音楽協議会(音楽集団)との連携を強化します。

若い仲間をはじめとして会員の拡大に全体で集中して取り組みます。行動の中でおおぜいの参加者に演奏を聴いていただき、また地域でコンサートを開いて、一緒にうたう仲間を広げます。音楽祭やブロック合宿に、新しい仲間積極的に参加を呼びかけます。それと同時に、日音協は「音楽運動に定年はない」と言ってきましたが、改めてそのことが現実になるような活動をすすめます。

日音協会員は規約では支部会員と個人会員としています。が、これから新たに日音協に入会していただく方は、地域に地域支部がある場合は原則として地域支部に属することとし、また地域支部に属することが難しい場合には、幹事会の議論を経て個人会員とします。現在の個人会員も、地域に地域支部がある場合は、会員本人の理解と納得のもとに、順次地域支部に属していただくこととします。

日音協は、総会―全国代表者会議―幹事会という機関で、各支部の活動を集約し、全国的な活動を進めていきます。2023年度の幹事会はインターネットの活用(スームミーティング)も含めて毎月開催します。2023年度の全国代表者会議は7月に開催し、第60回定期総会は11月に開催します。

## 11 機関紙活動

メールマガジンとして、機関紙『音楽運動』のA4版6ページ、月1回配信を継続します。印刷・郵送による発行も継続しますが、インターネット配信への切り替えを引き続きお願いしていきます。機関紙購読料は、取材・編集費用として引続き年2400円(月200円)とし、日音協会員は会費に含まれることとします。全国の動きを知らせるためにも写真を多

用し、楽譜も多く掲載していきます。発行にあたっては、全支部、全会員が、編集部情報を送るとともに、編集部は年間の企画を立てて各支部・会員に原稿を要請し、支部も依頼された原稿の締切を守って、発行態勢を支えていくこととします。各支部事務局は会員・読者に届いているか、年1回は点検することとします。

## 12 財政活動

日音協は2009年の組織改変以後も、賛助団体が減少し、会員も減少傾向が続いています。会員を増やす活動に力を入れていますが、成果があらなければ財政規模の縮小は避けられません。

この2年間、感染症対策のために支出が大きく減った一方、事業収入なども大きく減っています。この間、事務局経費の節減をはかってきましたが、2023年度も堅実な執行に努めるとともに、新しい会員を迎えるために、各ブロック合宿や若い会員の交流会にはしっかりと財源を配分します。

音楽祭特別会計の繰越額が減少していることから、一般会計から特別会計に15万円を上限に繰り出します。

第59回日音協総会を、11月12日(土)、東京都内で開催します。

コロナをあなごらないで、人とのつながりを大切にしながら、音楽運動を進めていきましょう。

# はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話

## 第一弾 《演奏形態とボーカルマイク》

3年ぶりに開催された『第53回はたらくものの音楽祭』でしたが、マイクを立てずに演奏する団体が今までになく多かったことに気づかれた方もいると思います。マイクを立てずに演奏した団体は、①オープニング演奏の関東合同 ②メーデー合唱団 ③林音協 ④新潟県支部 ⑤メイウィンズ ⑥自治労音協（中央に2本のマイクはソロ用）の6団体でした。

そしてこの話を音楽運動に載せようと思ったきっかけは、音楽祭2日目の朝食会場での会話でした。前日の新潟県支部の演奏が話題になり、ある方が「マイクも使わず、あんなに声ははっきりと一つになって聴こえるのはなんでだろう？」と驚かれているのを聞いて、マイクを立てない＝マイクをつかっていない、と見えているのだと知らされました。実は、マイクは使っているのです。バウンダリー型コンデンサーマイクという、演劇や会議などで使われる平置き型のマイクを使っていたのです。2017年の東京音楽祭で日下さんがPAを担当してくださった時から、メーデー合唱団は前にマイクを立てずに、このマイクを使って演奏してきました。結果、生の声と、それを補う程度の声量がスピーカーから流れ、練習での合唱の響きのままに会場に届けることができることがわかりました。そして今年の音楽祭では、舞台監督の立場からバウンダリー使用が合いそうな演奏形態の団体には、マイクを立てないことをお勧めしたのでした。

さて、ここでひとつ間違いや誤解がないようにはっ

きりお伝えしておかなければならないことがあります。バウンダリー型コンデンサーマイクはハウリングがおきやすいため、モニターから音は出さない、つまり演奏時に返しの音はないということになります。なので、ドラムやエレキギターが鳴りまくる演奏、あるいは大きな音の楽器がたくさん入る演奏の場合は、ボーカルにバウンダリー型コンデンサーマイクは合わないということです。

裏返して言うなら、練習段階で楽器の返しの音もなく、ボーカルにマイクを使わずに生声で練習をしているような演奏形態であれば、音楽祭のステージでは、ボーカルにバウンダリー型コンデンサーマイクを使用した方が、練習で得た響きにより近い演奏をステージで再現できる可能性が高いということになりますので、是非お試しください。ただ、いきなりぶっつけ本番は不安があるので、その際はリハーサルでの確認をお勧めします。

但し、今年の音楽祭のPAをしていただいた日下さん曰く、バウンダリー型コンデンサーマイクを演奏に使用するにはそれなりの技が必要となるので、PAなら誰でもやってくれるとは限らないとのこと。少なくとも、東京音楽祭に続き、富山音楽祭、秋田音楽祭のPAさんは応じてくれましたが、来年の新潟音楽祭のPAさんが受け入れてくださるとは限らないので、その時はすみません、またの機会にお試しいただくということでご了解ください。（坂口美日）



### 女性集会で演奏しました

九州支部では、平和と権利を守る佐賀県女性集会（10月22日、於、佐賀市メートプラザ）のステージで約30分、I女性会議の皆さんと一緒に改憲反対の歌を中心に歌いました。

支部からは山田、三小田、牟田、山中の前期高齢者4人が参加。「私は忘れない」「戦争に力貸さない」「うたおう命の歌を」「決意」の間に、日音協の紹介と三小田氏の「オール電化はいらない」をはさんでやや好評？でした。

この女性集会は県母親大会～母と女教師の会を経て今回で58回を数え、日音協九州支部とは20年以上のおつきあいでここ数年は連続して「私は忘れない」「決意」の紹介をしています。（山中正仁）



### 『歌声サロン』で演奏

10月14日（金）午後、被災者の復興支援事業というこで、『歌声サロン』を主催するNPO法人ライフケアから協力を依頼され、福島県支部の二階堂さん、南條さんと私坂口で演奏してきました。会場となった、郡山市の公民館には、被災者の方が10人ほど集まり、二階堂さんお得意の良曲が良く知っている歌や、南條さんのオリジナル、『僕は君のそばにいる』『ざけんじゃネー汚染水放出』を歌い、フォークソングのリクエストなどもあり、しばし歌での交流をたのしみました。参加者からは、「しばらくぶりで歌った」「歌はいいね」との感想をいただきました。（坂口美日）



# 闘いは続くこれからも続く

## 街頭で応援行動

オール沖縄勢力の保守グループが離反し、那覇市長に自公推薦候補が当選し、翁長雄治（元県議）は届かなかった。

故翁長知事は「イデオロギーよりアイデンティティ」と県民に団結を呼びかけ、「基地は経済発展の阻害要因」、辺野古新基地建設を絶対に許さない決意を述べ政府と対峙、「ウチナーンチュ、ウシェーティナイピランドー（沖縄の人をないがしろにしていけない）」と県民、国民に訴えました。「沖縄への構造的差別」を無くすことに命をかけました。

75年前、沖縄に鉄の暴風が吹き荒れ、県民は、人間が人間であることを無くした悲惨な戦争を体験し、戦後、日本から切り捨てられた沖縄は、米軍の銃剣とブルドーザーによる土地の強奪、米兵による女性へのレイプ・殺人などの人権侵害に対して、島ぐるみ闘争となり復帰闘争となり、いまの沖縄の闘いにつながっています。

政府の圧力に屈して心ならずも辺野古新基地建設に賛成となった人、利益誘導で賛成している人など、心からそれを望んでいません。

市民の生活と権利を守るとともに、市民の誇りを守る闘いも重要です。闘いは続く、これからも続く。オヤファーフジ（ご先祖様）から引き継いだ沖縄のチムグクル（精神）を、子や孫に引き継いでいくのが、今を生きる私たちの使命です。

市民・県民の団結を守るために、まじゅんチバラやーさい。（沖縄県支部・平良昌史）



## 地域でバンドを結成

約45年前に、就職と同時に、組合の中のサークルで活動開始。組織内、日音協、地区内での音楽活動スタート。メーデーでの歌声（音響含め請負）、各種集会、平和友好祭…と、音楽の場は、あふれていました。しかし、ある時から、組合がらみの音楽の場は一切無くなり、日音協のみになったとき、組合とは関係なくバンド活動をやってる先輩からの誘いで、現在につながる活動がスタート。職業もばらばらの音楽仲間との出会いです。組織内から離れたところには、こんな場があるんだと、目からうろこ状態でした。各種イベント、福祉施設等で、60年代、70年代のフォークソング、歌謡曲等、口ずさんでもらえ、楽しんでもらえる歌声形式の音楽。14年前に、現在のバンド「ふれんず」を結成。年齢、職業も異なる、約15名のメンバーです。地元JAイベント広場での、月5回の演奏、地域内の各所イベント、介護・福祉施設でのコンサートなど、楽しく活動してきました。コロナまん延になってからは、外での演奏は、かなり休止状態ですが、バンドの練習は、週1回、必ず実施しています。モットーは、継続は力なり、音楽は自分たちも楽しく、お客様も楽しく、です。（福島・二階堂政則）





# 水道橋 だより

※イットクフェス 2022 は中止になりました！

▼10月9日(日)に予定していたイットクフェスは、雨天予報のため中止になりました。▼が、歌う茱萸坂ステージ出演者の一部とお友達アーティストが、東京国立市のライブハウス『かけこみ亭』に集結し、同日午後より、かけこみライブやっちゃいました！『かけこみ亭』には、午後14時を過ぎたあたりから続々と、大阪から前日入りしていた川口真由美さんと同じ職場のお友達アーティストさんや中川五郎さんとそのお友達アーティストさん、いなのとひら・のとかばとおもちゃ楽団のみなさん、ジョニーHさん、そして学園坂スタジオの小笠原もずくさん。日音協からは、Piggies、Rico & Tatsu。▼たった一夜のうちに決まったライブとは思えない賑わいの中、それぞれのアーティストが奏でる多種多様な演奏が進行し、時間の経つのもあっという間でした。(坂口美日)



Piggies



小笠原もずくさん



Rico &amp; Tatsu

## 歌の力が物語るもの 111

茱萸坂うた行動 10/14 (457回) 報告 Rico

【参加者】佐藤さん、モリヤさん、はしゆきさん、イサさん、達哉、森、計6名、  
+留学生さん

駅から茱萸坂を下りはじめるとトランペットの音が聞こえた。佐藤さんだ。モリヤさんの赤いギターケースもある。経産省前の行動から移動してくるから、到着が早い。そして見慣れない若い女性が……。はしゆきさんが経産省前で出会ったという韓国からの留学生だそう。映像の勉強をしていて、来年の卒業制作に『反原発』をテーマの映画を撮りたいとのこと。今はその大きなテーマを絞り込むための情報収集らし

い。はしゆきさんが経産省前の行動を説明し、茱萸坂のこと「こんな行動もあるよ」と紹介するために連れてきてくれた。反原発の官邸前行動が始まったのは2012年4月。日音協が官邸前行動に参加し始めたのが同年9月。当時は官邸前には人が多く、歌える場所もなかなか定まらなかった。官邸前行動にはやがて、いくつかの固定ブースが生まれ、シュプレヒコールだけではなく様々な形の抗議が繰り広げられた。風刺画だったり語り場だったり。歌のエリアも複数あったはずだ。：という話を彼女にした。私たちはずっとここで、ほかのエリアのことはよく知らないけれど、反原発の行動が終わった今も活動を続けているエリアはある。いつも通りかかるクッキー坊やの家族は、キャンドルエリアに参加している。

彼女が19時まで聴いていけるというので、反原発の歌を選んで歌った。『あたりまえの地球』『風車の唄』『私たちは許さない』『私たちの暮らしは私たちが決める』『明日を殺すな』『前へ』……。歌っているうちに、佐藤さんに渡している歌の情報がとても少ないことに気づいた。立ち寄って歌ってくれる人のために歌詞カードは作ってきたが、伴奏に加わってくれる人のための楽譜集はない。作らねば。調を言えばなんとか合わせてくれる能力に甘えてばかりではいけない。

留学生さんが帰ってからは色々な歌を。まずは沖繩。『ジューゴンがすむ海』そしたら続けて『ふるさと沖繩』を歌いたい。そして佐藤さんリクエストの『民衆の歌』。この曲、別の行動の場で彼が弾いているところに混ざろうとしたらFだった。茱萸坂はGでやっていたから、実は頑張って合わせてくれた。それが判明。今日も「Gで」と笑顔で応じてくれた。行動を終えて撤収しながら、イサさんとマイナンバーカードの話になった。保険証と続合？、冗談じゃない。普及が進まないのは政府が信用できないからだ。ポイントという餌の次は恫喝がやってきた。これが岸田政権の本性。許すものか。

## どん行

(160)

飯島貞親

は、さわやかな存在でいてくれたほうが扱いやすいし、金になる。選手は完全に商品と化している。

▼五輪汚職事件が明るみに出ている。なぜか、選手やスポーツ界は沈黙を貫いている▼無観客で強行開催された東京五輪。開催前にも国立競技場建設計画が白紙撤回され、公式エンブレムは盗用疑惑で使用中止。さらに大会幹部による女性蔑視発言など問題が続出。一年経ったいま、今度は汚職事件が次々と発覚し五輪への不信感が再び高まっている▼なぜ、五輪の闇がここまで肥大化してしまったのか。アスリートや指導者などが見過ごしてきた結果でもあるのではないだろうか。幼い頃から競技に打ち込んできたアスリートたちは、社会から隔離された存在。練習することが結果に結びつく。ただこれは、裏を返せば自分で考えることを放棄しているのに等しい▼海外では、自分の意見を表明するアスリートが多いが、日本ではほとんど見当たらない。社会そのものの同調圧力が強いので、社会的な発言に二の足を踏んでしまうのだらう▼日本社会には、スポーツ選手に対してある種のさわやかさを求める風潮がある。勝ってもおごらず、負けても潔しとする態度に感動する。そこに社会的発言や政治的発言はそぐわない。スポーツサーにとって、さわやかな存在でいてくれたほうが扱いやすいし、金になる。選手は完全に商品と化している。